

熊本県議会議員

高島和男

届けます。
あなたの思いを県政に。 県政広報誌

悪夢のような熊本地震から1年4ヶ月が経過しました。今なお仮設住宅やみなし仮設住宅で不自由な生活を強いられている皆様に改めてお見舞い申し上げます。

去る6月20日、定例会で一般質問をしました。今回は熊本県が昨年末策定した「熊本復旧・復興4ヶ年戦略」を進めていくにあたり私なりに気づいた点や提案を交えて質問しました。その一部を抜粋して紹介します。

グループ補助金について

グループ補助金に関する相談で最も多いのは「時間がかかり過ぎる」こと。資料を提出しても何度も修正、追加提出を求められ、申請者の中には気持ちが折れ途中で放り出した方が少なくない。

補助金を受け取るまでの間、申請者には様々な支払いが発生し金融機関の融資を受ける必要があり、支払いまでの期間が延びるほど利息が経営を圧迫する。交付決定後、人件費や建設資材が高騰し補助金が目減りしたとの報告もある。



高島

質問①: 申請から支払いまでなぜか時間もかかるのか、進まない原因がどこにあり、改善できないか。

答弁①: 受付センターの設置、職員の配置や事務処理の見直し等とおして審査期間をできる限り短縮することに努めている。引き続き弾力的な対応をとりながら処理の加速化に努める。



熊本県

質問②: 申請から支払われる迄の一連の流れで、自分自身が今どの段階で次は何か待っているのか、ゴールが一体いつなのか、皆目見当がつかず予定が立てられない。県のホームページで大まかなタイムスケジュールを示し、立ち位置を理解できる「見える化」ができないか。

答弁②: 目安となる手続き期間を記載するなど工夫した上で県のホームページで周知する。

質問③: 申請者の中には熊本市南区の液化化や益城町の4車線化のように国の施策展開や、県との交渉の成り行き如何では事業の修正、見直しを余儀なくされることも考えられる。特殊事情を抱える申請者に対するの見解を。

答弁③: 今後も被災事業者に寄り添った対応を図れるよう国と協議する。

退職自衛官の配置について

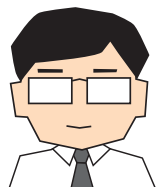
今回の地震、阿蘇の噴火、集中豪雨、台風…災害はこれからも確実に発生し凶暴性を増すことが予想される。自治体職員にとって大災害の経験は極めて稀である。自衛隊の皆さんはアクシデント

発生の際、いかに適切に対応するか日常的に多様な訓練を通して身につけている。



質問: 県が広域自治体として各振興局に自衛隊スキルを身に付けたスペシャリストを配置してはどうか。地域の状況を熟知した災害のプロがいることで万一の際、市町村、県、自衛隊との連絡調整もスピード感を持って取り組めるのではないか。

答弁: 国の制度に加え防災スペシャリスト配置の有効性を市町村長へ伝える。地域振興局への退職自衛官の配置は市町村における配置状況をみながら研究する。



子どもの貧困実態調査について

子どもの貧困問題は昨今の非正規雇用、低賃金、失業、離婚、孤立、虐待等の影の部分が複雑かつ多様に絡んだ社会課題。

放置すれば大人になって生み出す所得は減り、ひいては税金や年金等の社会保険料が減少する。それどころか生活保護、失業給付、職業訓練

の費用等 公的支出は増し、結果として社会的損出は貧困家庭以外の国民にもものしかかる。今対策を講じることは貧困状態の子どものみならず、社会的にも将来大きなリターンをもたらす投資施策である。



高島

質問①: 今月実施予定の貧困実態調査は 小5・中2・及びその家庭が調査対象だが、県の調査であれば高校生も加えるべきではないか。調査対象設定について。

答弁①: 早い時期からの取り組みが必要と考え義務教育課程の年齢を設定した。先行実施の他県も同様の設定で比較することで本県の施策に反映できると考えた。



熊本県

質問②: 先行調査した沖縄県は市町村の協力を得て世帯収入と社会保障給付関連データを合わせて独自の貧困率を推計した。客観的な数値を組み合わせることでより実態に近づくのではないか。調査手法について。

答弁②: 全市町村の対象学年全ての1万8千人の子どもと保護者を対象とし、その中で所得状況についても調査する。

質問③: 貧困問題解決で最も大切なのは問題を理解して共感する人をいかに増やすかということ。今回の調査結果を分析し、多くの県民に分かりやすく開示すべき。調査結果の公表について。

答弁③: 熊本県立大学の協力を得て調査結果を分析、課題等を明らかにして今年度末を目途に公表予定。

子ども食堂について

子ども食堂はボランティアや事業所が経済的な事情や家庭で十分な食事がとれなくなった子どもに無料または安価な食事を出し、ある時は子どもたちで、ある時は地域の大人と触れ合うことができる居場所を提供する民間の取組み。現在全国で320ヶ所を超え本県では16ヶ所が活動中で今後開設を予定して準備を進めているところも数ヶ所ある。

私は最近3ヶ所の子ども食堂を視察した。3つの食堂は運営主体、開催頻度、規模、全て異なるが、共通していたのは背伸びすることなく、今自分達で出来ることを出来る範囲でやること。果たしてこのまま善意を持った皆さんの好意に甘えたままでよいのか。



質問①: 本県の子ども食堂に対する認識。

答弁①: 子どもたちへの食事や居場所の提供、世代間交流、地域のつながり等、様々な機能を果たしており大いに意義のあることと認識している。



質問②: 他府県の動向を踏まえて本県においても拡大傾向にある子ども食堂に対して今後どう向き合っていくのか。

答弁②: 子ども食堂は全国的に拡大しつつある過渡期にある。活動状況を把握して子ども食堂がより効果的な役割を果たすために県としてどのような取り組みが必要か検討する。

今回の質問の全体は、高島和男HPの『活動報告』でご覧になることができます。ぜひご覧ください!

届けます!
あなたの思いを
県政に
私の活動の原点です。



高島和男事務所

ホームページでは、写真付日記を毎日更新!

▶▶▶ <http://takashima-kazuo.com/>

Facebookもやっています! ●●●●●▶

〒862-0962 熊本市南区田迎2-17-7

TEL.096-288-6004 / FAX.096-288-6009

